



【検査費用】自由診療で医療機関によって異なる。山村クリニックの場合、ABC検診は3800円(税込み)。他にも初診料や結果説明時の再診料などが必要。

現時点で全国の300へらいの自治体(17.5%)が導入しているとされる「胃がんリスク検診」(通称・ABC検診)。血液検査で胃がんのリスクを4段階(A〜D群)に分類し、胃の内視鏡検査を受けた方がいい人をあぶり出す検査である。

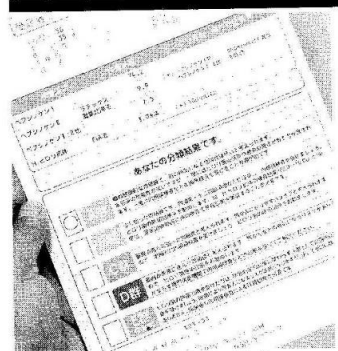
自治体で行っている場合は費用が助成されるが、個別検診(自費)としてどこかの医療機関でも受けられる。検査は採血だけなので数分で終わり、結果は3〜5日後に外来で医師から伝えられる。

血液中の何を調べるのか。「山村クリニック」(東京都文京区)の山村進院長(消化器病専門医)「顔写真」が説明する。



「ABC検診は、ピロリ菌に感染しているかどうかの『ピロリ菌(Hp)の抗体価』と、『ペプシンゲン(PG)』という物質の血中濃度を調べています。この2項目を組み合わせて、『血清ABC分類』という方法を応用して判定しています」

胃がんの99%はピロリ菌感染が原因であることが分かっている。感染が持続すると胃粘膜の萎縮が進み、がんが発生しやすくなる。その萎縮の程度を反映



自身のタイプが分かる報告書

胃がんリスク検査 発生の可能性はどこまで分かるか

「ただし、たとえA群でもリスクは完全にゼロにはなりません。ピロリ菌感染を背景としないう未分化がんもまれにある。A群であっても1度は内視鏡検査をして、その後の間隔は5年に1回くらいがいいと思います。」

この結果による1年間の胃がん発生頻度は、A群は「ほぼゼロ」、B群は「1000人に1人」、C群は「500人に1人」、D群は「80人に1人」とされている。

「ただ、萎縮した胃粘膜は元には戻らないので、リスクはそのまま残ることになる。そのため、すでに除菌治療している人はABC検診の対象外でE群に分類され、定期的な内視鏡検査が必要となる。他にも、胃潰瘍や十二指腸潰瘍などの治療中の人、胃酸を抑える薬(PPI)を服用している人、胃切除した人、慢性腎不全の人なども対象外だ。」

(新井貴)